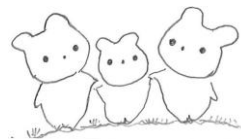


このコーナーは、区民大学“生涯学習コーディネーター養成講座”修了生が企画し取材した「区民による区民のための」手作り記事です！

シリーズ

つなごう。OTA その10



リーダー講習会

青少年教育指導者セミナーⅡ発 ⇒

はばたく地域活動

## おおた居場所づくり研究会

### ～みんなの気楽な居場所「キネマティーンズプラザ」～

親でも祖父母でもなく、学校の先生でもない、地域の身近なおトナが、いつでも笑顔で「みんなの居場所」で待っていますよ！



#### ★どこにあるの？

2月15日(水)私たちは、冷たい北風の吹く夕暮れ時、「キネマティーンズプラザ」におじゃましました。JR 蒲田駅から東へ20分くらい歩くと、キネマ通り商店街が見えてきます。その中程にある商店会振興組合事務所が「みんなの居場所」です。出入口をオープンにしているので、誰でも気軽に中に入れます。椅子が10個も並び、満席になりそうなアットホームな場所です。研究会の会長田中翔三さんはじめ桑原さん、畔上さん、鈴木さん、深谷さんに早速お話を伺うことにしました。取材中に小学生の女の子2人が訪ねて来て、私たちも一緒になって粘土遊びなどを楽しみました。

#### ★おおた居場所づくり研究会(以下、研究会)とは？

ここは「おおた居場所づくり研究会」の実践の場です。2008年2月～3月開催の「大田区青少年教育指導者セミナーⅡ(居場所づくりセミナー)」を受講した仲間から、「今後も中・高校生の居場所について語り合い、みんなで何かできるといい」という提案がなされ、セミナーの修了者を中心に集まったグループです。

青少年活動に携わる市民、研究者、子どもの施設で働く職員、青少年委員、地元の青少年対策地区委員などで構成されています。

正会員と賛助会員合わせて20名ほどで、男女比は男7:女3、年齢は20～70歳代、毎月の定例会は、主にこらぼ大森を会場に実施しています。

#### ★「キネマティーンズプラザ」とは？

ファーストフード店やファミレス、友達の家、塾、学校とはちがう空間で、自由におしゃべりしたり、ゲームや勉強をしたり…そんなみんなの居場所になればと、今年の7月から開かれています。ルールは「学校から一度家に戻ってから」。

開放日は、毎月2回、第1・第3水曜日の放課後の時間帯4:00pm～8:00pm、無料で利用できるよう開放されています。見守りスタッフは毎回3～4名の交代で、仕事を持つ人は休暇を取ったり、退社後にかけてつけています。

毎回十数名の小・中学生が立ち寄り、おしゃべりをしていくそうです。

### ★温めた思いはつながる

研究会では、「みんなの居場所」を具体化させる場所を探していました。そこに「大田区キネマ通り商店会」会長の柳町さんからの「事務所の有効活用」の声かけがあり、研究会の思いとつながることになりました。

研究会では、ポスターやチラシを作り、まず地元の東蒲中学校に説明することから始めました。メンバーの桑原さんは、蒲田東地区の青少年対策地区委員長でもあり、柳町さんとともに地区委員会や、商店会などの地元で説明をしてきました。保護者や地域住民、自治会・町会の理解協力をいただきながら、研究会の実践の場がスタートしたわけです。



### ★課題・広がる夢 一役は子どもたち

現在の「キネマティーンズプラザ」はワンルームなので、例えば悩み事の相談や話し合いの時には年齢差も考慮しながら、プライバシーが守れるように「仕切があるといいな」と話し合っていました。夏休みなどの利用の仕方なども、子どもたちの意見を聞きながら考えていくそうです。

この活動が、口コミで地域の中に広がることも望んでいました。小学生には児童館があるけれど、中・高校生には塾以外にそういう場がないので、たくさん来てくれると嬉しいとのこと。また将来的には、大学生等の若者にもスタッフとして、参加

してほしいということです。ともに活動する人材の発掘や育成は研究会だけではなく、地元の方々と協力し合って、若者の活動支援の場にもしていきたいと考えています。

今のところ“人集めのイベント”はしていません。ここに集まる子どもたちに安全な場所を提供して、「子ども・若者の参画」の視点で自分たち自身でやりたいことを自由に考えてもらい、大人本位にならない運営を、と考えているそうです。

少しでも子どもの張り詰めた心が癒されるような、地域にも喜ばれるような居場所になればいいと会長の田中さんは、やさしいまなざしで話してくれました。

幼い子どもから高齢者まで、世代を越えた交流へと広がりや深まりが生まれてきそうです。そんな「キネマティーンズプラザ」へ、孫を連れて買い物ついでのおばあちゃん、近くの幼稚園・保育園の送迎の親子連れさん、近所に住む中学生のみなさん、ちょっと寄ってみませんか？

「子育て広場」や「ふれあいいきいきサロン」など「居場所型」活動の夢は広がっていきます。

取材・編集：「つなごう OTA」編集委員会



### 《取材を終えて》

- ♪ 不思議な空間だなんて思いました。何の抵抗もなく寄れる場所。ずっとずっと続けていって、大人になってもまた来ることのできる居場所であってほしいと思いました。(橋本 フミ子)
- ♪ お話を伺っていると、会員の皆さんの地域の子供を思う気持ちがどんどん伝わりました。地域のオトナの力は、これから益々期待が高まると思います。私の子どもの頃にも「みんなの居場所」があったら良かったのになあと思いました。(服部 由美子)